広島大学学生に対する英語学習カウンセリングの試み

前　田　啓　朗
広島大学情報メディア教育研究センター
外国語教育研究系

1．背　景

個々の英語学習者は習熟度や必要性，動機づけなど多様な個人内要因を持ち，それに由来する疑問点は通常の一斉授業のみでは対応しきれない。また，授業中に質問する機会は限られ，進行の都合から多くの時間を割くこともできない。これらのことから，学生が英語学習に関わるさまざまなことについて相談できる窓口があれば，より水準の高い学習支援が行えるのではないかと考えられた。

また，広島大学ではオフィスアワーとして，学生が質問をするために教官研究室を自由に訪れる機会を設けているが，特に学部学生にとっては教官研究室のある研究棟にはあまりなじみがないと思われ，授業の内容外のことであれば質問することがためらわれたり，英語の授業を履修していない場合にはどの教官に尋ねてよいものかわからずに困ったりする場合も考えられる。それらの懸念を踏まえ，英語学習カウンセリング実施の計画が進められた。

2．実施状況

2.1．実施の場所

実施場所に関しては，西図書館3階のピア・サポート・ルームを借用することとした。これは「学生による学生のための何でも相談室」として，学生生活上の諸問題に対処するに当たり，学生同士が気軽に相談し，互いに助け合う学風を醸成するよう，学生ボランティアが学生の相談に応じるために設置されているものである。この場所に決定したのは，主に以下の2点の理由によるものである。

1）学生にとってなじみのある場所であること

西図書館は総合科学部の近く[1]にあり，その総合科学部の講義棟では教養的教育科目のほとんどが行われている。そのため，学生のほとんどすべてにとって西図書館はなじみが深い場所であるとともに，研究棟のように専門的な印象を与える場というよりもむしろ，図書館という開放的な印象を与える場である。したがって，来談する学生の心理的負担を少なくすることができると考えられた。

2）英語学習のための材料がそろっていること

ピア・サポート・ルームのある西図書館3階は，マルチメディアフロア[2]として利用されている。端末が自由に利用できるほか，外国語学習における発声練習などのために設けられた隔離型（個室）ブースなどもある。したがって英語学習のためにこの場所を訪れる学生も既に多く，学習するための設備や材料も豊富であることから，英語学習に関する相談を行うために便利であると考えられた。

これらの理由から借用を申し入れ，週2日間（火曜日と木曜日），ピア・サポート・ルームの開室時間以外での借用（17:00〜19:00）が快諾された。

2.2. 実施の告知

告知に関しては，日本語名を「英語学習に関する学習カウンセリング」，英語名を“CEL: Counceling for English Learning”として，平成13年10月より実施された。また，気軽に来談しやすい雰囲気を作るため，通称を「英語学習よろづ相談処」としてポスターなどを製作した。そして，1・2年生を対象とした教養的教育科目の英語科目において，その科目を履修している全学生を対象に担当教官を通じて案内文を配布した。また，西図書館や教養的教育科目で使用される講義棟，などにポスターを掲示した。

また，ウェブサイトを作成し，そのURLをポスターや案内文に掲載した。このサイト[3]には既要などを掲載するほか，Eメールの送信フォームを置き，時間内に来談できない学生のための窓口となるようにも配慮した。

2.3. 実施する相談員

相談員に関しては，単に英語の能力があるというだけではなく，英語学習の過程や英語教育に関する専門的知識がなければ，個々の事例に柔軟に対応することなく，相談員自身が持つ経験則の再生産や思い込みによる指導が起こる危険性が考えられる。従って，英語教育の経験を持ち，かつ，英語学習に関する専門的知識を持つ相談員を得る必要があった。

平成13年度は試行段階でもあり，週あたり2日間を予定していたため，うち1日を筆者，もう1日を大学院生（三浦宏昭氏）に，情報メディア教育研究センター外国語教育研究系の教務補佐員として依頼した。氏は本学教育学研究科言語文化教育学専攻英語文化教育学専修において英語教育学を専攻し，特に語彙学習方略研究を専門としており，専門的知識を有すると判断できるほか，留学経験や中学生および高校生に対する英語教育経験もある[4]。また，筆者も日本人英語学習者を対象とした学習方略研究を主な研究活動のひとつとして位置付けており，留学や中学生および高校生を対象とした英語教育を経験している。

表1．平成13年度後期の実施実績

月	日	曜日	来談	相談	備考
10	23	火	13	4	
	25	木	7	5	
	30	火	3	3	
11	1	木	3	3	
	6	火	1	1	
	13	火	0	0	
	15	木	3	3	
	20	火	0	0	
	22	木			実施せず
	27	火	2	2	
	29	木	1	1	
12	4	火	1	1	
	6	木	1	1	
	11	火	1	1	
12	13	木			実施せず
	18	火			実施せず
	20	木	2	2	
	25	火			実施せず
1	8	火	1	1	
	10	木			実施せず
	15	火	1	1	
	17	木	1	1	
	22	火	2	2	うち1は昼の部
	24	木	1	1	
	29	火	0	0	昼の部のみ実施
	31	木	1	1	
2	5	火	1	1	
	7	木	2	2	

2.4. 実施の経過

平成13年10月23日(火)より，毎週火曜日と木曜日の17:00より19:00までとして実施を開始した。また，平成14年1月8日(火)よりは，火曜日のみ昼休み時間にも12:30から13:00まで，総合科学部講義棟のほぼ中央部分にあたるK202講義室においても実施した。これは，後述する学習支援室運営委員会において，来談者が少ないために夕方だけでなく昼間も実施してみようという試みとして始まったものである。

来談者数と相談者数（対応した来談者数）は，次の表1に挙げられる。具体的な相談内容については，単純に英文のわからないところを尋ねるものから語学留学のための準備を尋ねるものなど多岐に渡った。今後は類型化などを進め，より学生の必要性に応じられるようにしてゆきたい。

来談者の内訳に関しては，学部学生が主であるが大学院生も来談しており，学年を問わない必要性が伺える結果となった。また，一度来談した学生の再来談は3名がそれぞれ1度ずつであった。

2.5.『学習支援室』としての再スタート

情報メディア教育研究センター外国語教育研究系（メディアコミュニケーション系）でこの計画を立案し実施する中で，学習支援室準備委員会（現在は学習支援室運営委員会）から理系科目（化学・物理学・数学）についても同様の計画があったことが知らされた。

これら3科目については平成13年12月3日(月)より月曜を化学，水曜を物理学，金曜を数学として開始し，ピア・サポート・ルームが17:00に終了してすぐに別用途で学習支援室として部屋を使用するのは難しいとのことで，実施時間は17:30から19:30までとされた。また，相談員はティーチング・アシスタントとして，各分野そのものを専門とする大学院生が選出され，相談にあたった。

そのような過程を経て，同じ場所（ピア・サポート・ルーム）を使用し，ほぼ同じ時間帯（英語は17:00から，他は17:30から）で，協力体制のもとで学生の疑問に答えるという目的を持ち，上述のように平成14年1月8日(火)からは昼休み時間にも12:30から13:00まで，総合科学部K202講義室においても実施した。

3．今後の課題と展望

広島大学における教養的教育をより充実させるため，平成14年度よりは理系科目と運営を統合し，学習支援室の名称で実施を進めていくことが決定したが，英語の相談員が持つべき知識として前提にしていた教育経験や学習過程に関する知識はその他の科目においては前提としておらず，相談や指導の方向性の統合が課題となる。また，英語は教官である筆者と教務補佐員である大学院生が平成14年度も行う予定であるが，他科目は大学院生がティーチング・アシスタントとして行うという相違もある。広報やウェブを介した学習支援に関しても英語は上述のようにサイトを作成してあるが，他教科のサイトも作成し統合を図るためにはサイトの構成をどのようにするか課題となる。このような制度運営上の統合も課題であろう。

また，平成13年度分として行った相談においてなされた質疑応答などをとりまとめ，類型化することも今後の課題として残る。これにより，新たな相談員を得た場合のマニュアル作成や，サイト上でのFAQ（よく寄せられる質問）としての公開などを行うことが可能となる。ただしFAQの公開については，単純な英語自体に関する質問であれば懸念は少ないが，学習方法などの個人差によって適正処遇が大きく異なる場合があるため，一概に質問に対する回答を決定することができない。このため，標準的な方法を示すことは難しく，慎重に考慮する必要がある。

また開始以前にも考えられたが，平成13年度の実績からも，セメスターの開始時期（前期は4月から，後期は10月から）が最も来談者が多く，セメスターの中間時期以降には来談者が少ない。セメスターの終盤には試験などもあるために難しいかもしれないが，中盤には単に個別の学習相談を待つだけでなく，言語機能や言語使用場面，言語材料などに焦点を絞った講習会などとして学習の場を提供し，学習を支援する体制を強化することができると思われる。これを平成14年度の展望として，企画，実行していくことが望まれる。

[注]

1）西図書館の位置

広島大学サイト内の地図(http://www.bur.hiroshima-u.ac.jp/～koho/koutsuu/img/koutsuu.jpg)にあるように，総合科学部と西図書館は非常に近い位置関係にある。食堂などのある西2福利会館も同様に近く，付近には学生が多くて非常に活気のある地域である。

2）マルチメディアフロア

情報教育用オープンスペース，Windows端末コーナー，外国語自習室，マルチメディア自習室，隔離型外国語自習スペース，情報化グループ学習室などを備え，情報教育や外国語学習のためにWindows，iMac，ICE Linux の端末を自由に使用することができる。

http://www.riise.hiroshima-u.ac.jp/RIISE/facility/N-3F.html

3）ウェブサイト

「英語学習に関する学習カウンセリング」の紹介，実施の時間と場所の紹介，相談員の紹介などの他，CGIによってブラウザからもEメールを送信できるようにしている。

http://flare.media.hiroshima-u.ac.jp/cel/

4）三浦宏昭氏の研究業績・留学歴・教育歴・略歴

研究業績

前田啓朗・田頭憲二・三浦宏昭．2001.「高校生英語学習者による語彙学習方略使用」『第27回全国英語教育学会広島研究大会発表要綱』361-364.

三浦宏昭．in press. *Annual Review of English Language Education in Japan (ARELE).* 13.

Hiroaki Miura. 2001. A study on vocabulary learning strategies: With special reference to Japanese junior high school students. Unpublished Graduation Thesis, Department of English Language Education, Hiroshima University.

留学歴　平成10年4月～平成11年3月
　連合王国ウォーリック大学英語教師教育センター　単位互換留学　開始～修了

教育歴　平成11年4月～現在　武田学園中・高等学校　生徒寮夜間特別学習講師

略歴　平成9年4月～平成13年3月
　広島大学教育学部教科教育学科英語教育学専修　入学～卒業
　平成13年4月～現在
　広島大学大学院教育学研究科言語文化教育学専攻英語教育学専修　入学～

ABSTRACT

Counseling for English Learning toward EFL Learners in Hiroshima University

Hiroaki MAEDA
Department of Foreign Language Research and Education
Information Media Center, Hiroshima University

This report shows the series of attempt of "Counseling for English Learning (CEL)," which was planned by Information Media Center. CEL started for the students at Hiroshima University in October 23, 2001. Since learners of English have various characteristics, it is very difficult to support each learner's problem or trouble only in classroom. CEL was planned to support and facilitate students' learning, flexibly considering individual learner differences such as language proficiency or learning motivation. It was decided that CEL would be conducted in West Library, which is convenient for students because they are used to the place around there and for counselors because a lot of English learning resource are equipped there. The counselors should have knowledge of English teaching and learning as well as competence of English language itself, so that a student at graduate school of education and the author, who both major Teaching English as a Foreign Language, especially English learning strategy use by Japanese EFL learners, participated in CEL as counselors. Another, a similar attempt, named "*Gakusyu Shien Shitsu*," started to support learning mathematics, physics, and chemistry by other committee in December 3, 2001. Then, it has been planed to integrate it and CEL to enrich general education in Hiroshima University.